

ブラジルでの第7回サイ会議 (ISLIS 共催) および 21 世紀初頭の特異現象研究の傾向

(Report on 7th Psi Meeting (Co-sponsored by ISLIS) and
Research Trends for Anomalous Phenomena in Early 21st Century)

小久保秀之
(Hideyuki KOKUBO)

ISLIS 常務理事・執行編集委員
国際総合研究機構 研究部長

要旨: 2011 年 8 月にブラジル・クリチバ市にて、ISLIS と統合的スピリティスト大学との共催で、第 7 回サイ会議が開かれた。同会議は南米地区の国際会議で、今回は第 54 回国際超心理学大会と第 6 回変性意識の旅と一緒に開催された。本報では、サイ会議の概要を紹介するとともに、21 世紀初頭の特異現象研究の世界的潮流として 1) 特異心理学の活性化、2) 予感 (予知) 実験の波紋、3) ヒーリング研究の拡大を取り上げる。

キーワード: 研究動向、特異心理学、予感、予知、ヒーリング研究、超心理学

1. 第 7 回サイ会議と第 6 回変性意識の旅

2011 年 8 月 17 日 (木) ~18 日 (金)、ブラジル南部最大の都市、クリチバ市にて第 7 回サイ会議¹⁾が ISLIS と統合的スピリティスト大学 (FIES: Faculdades Integradas 'Espirita'. UNIBEM のニックネームも使われる) との共催で開かれた。この会議は特異心理学 (anomalous psychology) とサイ研究をテーマとする南米地域の国際会議であり、今回は FIES のファビオ・ダ・シルバ教授 (ISLIS クリチバ情報センター長) の主宰で、国際超心理学会 (Parapsychological Association: PA) の第 54 回大会²⁾、ツアーの第 6 回変性意識の旅³⁾と併せて開催され、全日程は 1 週間にも及んだ (Table 1)。学術会議はポルトガル語・英語の同時通訳で実施され、ツアーまで含めれば日本、ブラジル、アルゼンチン、メキシコ、米国、ロシア、英国、ドイツ、オランダ、スウェーデンの各国から総勢 200 名ほどの規模であった。

第 7 回サイ会議は、研究発表 25 件 (中間発表を含む)、招待講演 2 件、討論会のパネラー講演 8 件があり、日本からは ISLIS 会長・理事長の寄稿の他、口頭挨拶 1 件、論文寄稿 1 件、研究発表 2 件があった。残念ながら今回は開催地が往路に 2 日、復路に

3 日かかる遠隔地 (ほぼ地球の正反対の位置) であり、かつ、直後に本学会の第 32 回生命情報科学シンポジウム (3 泊 4 日) があるという強行スケジュールだったため、日本からの直接参加は 2 名だけだった。

Table 1 日程表

8 月	午前	午後	夜
16 日		サント・ダイミと グアラニー族儀 式の事前説明	サント・ダイミ儀 式 (夜 7 時から 翌朝 3 時)
17 日	サント・ダイミ儀 式の事後説明	第 7 回サイ会議	
18 日	第 7 回サイ会議		PA 大会歓迎会
19 日	第 54 回 PA 大会		
20 日	第 54 回 PA 大会		
21 日	第 54 回 PA 大会		グアラニー族儀 式 (夜 7 時から 翌朝 3 時)
22 日		グアラニー族儀 式の事後説明 ピラミッドセラピー 実演	ウンバンダ儀 式 (夜 7 時から 12 時)

* 第 7 回サイ会議、PA 大会以外の行事は第 6 回変性意識の旅の行事

発表論文集は 284 頁の分量があり、本文は英語またはポルトガル語で書かれているが、全件の要旨がポルトガル語、英語、フランス語、日本語、ロシア

小久保秀之 国際総合研究機構 kokubo@a-iri.org
263-0051 千葉市稲毛区園生町 1108-2 ユウキビル 40A
電話 043-255-5481 FAX 043-255-5482

語、スペイン語の6ヶ国語に翻訳されている（多言語化は ISLIS 誌の影響といえる）。

学術研究発表は、2008年に設立されたサンパウロ大学特異心理学研究所（ザンガリ教授、ISLIS サンパウロ情報センター長）の学生や博士課程院生によるもの、FIESの社会人学生によるものなど、ブラジル国内の研究が約半数であった。若手による研究が中心とはいうものの、世界的に見てもブラジルの研究活動は活発な部類に入る。

サイ会議は2002年に第1回が開催され、しばらくの間、隔年で開かれていたが、2009年から毎年開催されるようになった⁴⁾。日本の研究者の参加は2004年の第2回からで、研究発表⁵⁻⁹⁾の他に、1990年代の日本の研究¹⁰⁾、気・変性意識状態の脳血流研究^{11,12)}、バイオフィトンによるヒーリング研究¹³⁾など日本の研究動向を紹介する講演も行われてきた。また、研究交流として日本側から実験機材の提供や技術指導、ブラジル側から研究機会の提供があり、これまでにフィールド RNG を用いたブラジル宗教儀式の調査¹⁴⁾、日伯間の遠隔ヒーリング実験¹⁵⁾、ブラジル児童の誘発訓練の試み¹⁶⁾といった国際共同研究¹⁷⁾が行われている。

今回は日程の関係で学術会議の前後に開かれたが、ツアーの「変性意識の旅」は、通常、サイ会議が午前・午後、ツアーが夜、さらに学術会議終了後にツアーという日程である。ピラミッドセラピー実演はサイ会議の会場で行われ、他の宗教儀式はクリチバ市郊外の祭場にまで移動する。一般の観光旅行では体験できないブラジル宗教文化の深部を覗き見ることができる稀有な内容で、実際、このツアーを目当てに会議に参加する人もいるくらいである。

2. 世界の最新の特異現象研究の傾向

2-1 特異心理学・宗教心理学・超心理学

現在、超心理学系の研究が最も活発なのは英国¹⁸⁾である。英国には超心理系の研究室・講義のある大学がエジンバラ大学、ロンドン大学、ブリストル大学など10大学以上あり、学部生・大学院生の教育・研究が行われている（Table 2）。すでに英国では高校の心理学課程に特異心理学が組み込まれることが検討されており¹⁸⁾、今後、特異心理学の側面から潜在能力を扱う研究が盛んになると予想される。これは21世紀の新しい潮流の1つと言えよう。

特異心理学は、稀ではあるが人類に普遍的に体験されている変わった体験、たとえば神や精霊、異界の生物との遭遇のような神話的体験や、UFOの目撃・遭遇体験、臨死体験、解離・没入体験、変性意識状態で体験する種々の出来事などを扱う。カルデ

ナ、リン、クリップナーの編集による『特異体験の諸相：科学的証拠の検証』（アメリカ心理学会刊）¹⁹⁾など関連研究書の発行も盛んで、サンパウロ大学の特異心理学研究所の設立も、この潮流の現れと言える。第7回サイ会議でも、(1)トランスの現象学：宗教の科学研究のフィールドとしての超常現象²⁰⁾、(2)現代の体験の多様性：心理学がUFO・宇宙人と出会う²¹⁾、(3)サント・ダイミとウンバンダ信者における解離体験の文化的領域と薬物依存からの回復²²⁾、(4)サント・ダイミ教の子供の発達と人格形成における精神面の宗教的表象と起こりうる事柄²³⁾、(5)不思議な進化：超常体験に関する心理学におけるダーウィニアンの可能性²⁴⁾、(6)アフロ・ブラジル霊媒の調査：性格特性と性差²⁵⁾など、種々の特異体験の研究発表が見られた。

特異心理学は、宗教心理学や超心理学と研究領域が重なり合う。たとえば、特異心理学は超常的体験や主張を研究テーマとし、そこにはサイ仮説（古典的超常体験と宗教的超常体験）が要素として含まれている。しかし、各領域の方法論の違いもあるため、ブラジルでは研究者の育成にあたって各領域を包括的に教育することを重要視している²⁶⁾。

Table 2 超心理学を扱う英国の大学

大学	連絡先
ブリストル	Guy Sanders, Jenny Parker, Chris Alford, Nicola Holt
デルビー	Ian Baker
コヴェントリー	Ian Hume
エジンバラ	Koestler Parapsychology Unit, Caroline Watt, Peter Lamont
クイーン・マーガレット	Stuart Wilson
グリーンウィチ	David Luke
ハートフォードシャー	Richard Wiseman
ランカシャー	Paul Rogers
ランカスター	Craig Murray
リバプール	parapsychology@hope.ac.uk
ロンドン	Chris French
ノーザンプトン	Richard Broughton, Chris Roe, Simon Sherwood, Elizabeth C Roxburgh
ヨーク	Robin Wooffitt

2011年現在。文献18)より。

2-2 予感（予知）実験

2つ目の大きな潮流は、予感（予知）の研究である。1980年代の初め、スウェーデンのクリントマン²⁷⁾が、認知的不協和の研究で予知効果と思われる現象—第1課題に続く第2課題が認知的に協和か不協和かで第1課題に対する反応速度が異なっ—を報

告した。その後、意識反応が物理的な刺激に先行することを示唆する報告²⁸⁾やその量子生物学的な考察²⁹⁾などが散見されたが、1990年代末にラディン³⁰⁾が画像呈示実験では刺激画像が呈示される数秒前から生理反応（皮膚電気活動）に違いが生じることを報告すると、状況が一変した。この実験は、従来のオーソドックスな心理生理実験のデザインを若干拡張し、刺激呈示前の反応も分析するというだけで予感（予知）効果を容易に検出できるというものだった。予感実験は各国で追試が行われた後、2011年に米国の社会心理学者ダリル・ベムが生理反応だけでなく選択行動にも予感（予知）効果が検出されると報告したことで、さらに大きな話題となり各方面から注目を集めている（たとえば国内でも2011年の科学基礎論学会でワークショップの討論テーマに取り上げられた）³¹⁻³⁶⁾。

予感実験の結果を物理学的にどう解釈すべきか、まだ議論の途上であるが、量子もつれを生物が利用していること、自由意志定理³⁷⁾のように時間遡及効果を連想させる量子現象が存在することを考えるなら、巨視的レベルの量子もつれが思った以上にありふれた現象だという事例なのかもしれない。

2-3 ヒーリング研究

3つ目の大きな潮流として、いわゆるヒーリングの研究が挙げられる。ここでは、手かざし、祈りによる治癒、エネルギー療法、気功外気療法、生体念力（bio-PK）などを一括してヒーリングと呼ぶことにする。現代ヒーリング研究の嚆矢はカナダのグラッド³⁸⁾による動植物を対象にした実験で、以降、補完代替医療・統合医療の分野を中心に研究されてきたが、この流れは1992年に米国に代替医療局が設立されたことで加速され、現在に至っている。

我国では民間療法、あるいは宗教行為の1種としてヒーリング実践の長い歴史があり、また1980~90年代に起こった気功外気やレイキの流行（いずれも日本の手かざしの逆輸入といえる）によって医療・心理療法者の関心も高まり、現代日本社会のいろいろな局面で実践例に出逢うことも珍しくない。すでに一部の訪問看護ステーション³⁹⁾では、緩和ケア・精神的ケアの一環としてアロマセラピーや音楽療法とともにヒーリングを看護計画に組み込む実践が行われている（健康保険が適用されている）。

実践の拡大速度に比べると医学的研究の進展はそれほど速くないが、将来、治癒機序が解明できれば、たとえばどの部分にヒーリングが作用して病や傷が治るのが特定できれば、そこを直接目標にした新しい治療法を開発できると期待される。一方、ヒーリング現象を引き起こす物理機構そのものの

解明は取り組み自体が少なく、今後、生物物理学的な観点からの研究を活性化する必要がある。

3. 終わりに

前節で3つの大きな潮流を取り上げたが、これらは研究者人口が比較的多い領域であると同時に、若手や他領域からの新規参入が期待される領域でもある。この他にも、フィールド RNG を使った地球意識計画（GCP: global consciousness project）⁴⁰⁾や電話テレパシー実験⁴¹⁾、トランス・コミュニケーション、死後存続問題など重要かつ興味深い研究が多数あり、今後の展開に注目したい。

謝 辞

大規模な国際会議の開催にご協力くださった日本・ブラジルの皆さんに感謝します。また、本報告の実施に当たり、一部、東長正記念超心理学研究基金の支援を受けました。

参考文献

- 1) http://www.unibem.br/cipe/11_inde.htm
- 2) http://parapsych.org/section/22/2011_convention.aspx
- 3) http://www.unibem.br/cipe/20_JEMCe.htm
- 4) http://www.unibem.br/cipe/17_edante.htm
- 5) Kawano K, Kokubo H, Yamamoto M, Hashizume S, Katsuragawa H, Kamada A, Takagi O and Watanabe T: Physiological studies during Taichi-quan in Japan. *Proceedings of 7th Psi meeting*, 184-191, 2011.
- 6) Kokubo H, Yamamoto M and Hirukawa T: Case report on strange electro-magnetic signals. *Proceedings of 2nd Psi Meeting*, 66-75, 2004.
- 7) Kokubo H and Yamamoto M: Research on brain activity during psychokinesis task. *Proceedings of 4th Psi Meeting*, 10-13, 2008.
- 8) Kokubo H, Takagi O, Koyama S and Yamamoto M: Spatial distribution of invisible power around a healer: Advanced application of gas measurement method using cucumber as bio-sensor. *Proceedings of 6th Psi Meeting*, 88-99, 2010.
- 9) Kokubo H, Takagi O and Nemoto Y: Biophysical measurements of bio-field around a human body. *Proceedings of 7th Psi meeting*, 193-199, 2011.
- 10) Kokubo H: Qigong relating to psi. *Proceedings of 2nd Psi Meeting*, 190-208, 2004.
- 11) Kokubo H and Yamamoto M: Brain activity while guessing - Research by functional near infrared spectroscopy. *Proceedings of 3rd Psi Meeting*, 133-139, 2006.
- 12) Kokubo H and Koyama S: Various mental activities and brain blood flow measurements using fNIRS. *Proceedings of 6th Psi Meeting*, 150-156, 2010.
- 13) Kokubo H: Biophotons reveal properties of non-contact healing - New perspective from quantitative index -.

- Proceedings of 4th Psi Meeting*, 171-187, 2008.
- 14) Hirukawa T, Hiraoka R, Da Silva FE, Pilato S and Kokubo H: Field REG experiments of religious rituals and other group events in Paraná, Brazil. *Proceedings of 3rd Psi Meeting*, 17-26, 2006.
 - 15) Facion JR, Hein J, Ganz NM, Da Silva FE, Da Silva MJ, Schilling S, Paul LSE and Kokubo H: Distant healing intention to autistic patients: An exploratory study with psychological and physical variables. *Proceedings of 3rd Psi Meeting*, 109-118, 2006.
 - 16) 小久保秀之、ファビオ・ダ・シルバ、シベール・ピラト、レジナルド・平岡、山本幹男：ブラジル児童に対するサイ能力誘発訓練の試み. *Journal of International Society of Life Information Science*, **23**(1), 179-188, 2005.
 - 17) 小久保秀之：日本と南米諸国との超心理学国際共同研究. *Journal of International Society of Life Information Science*, **24**(2): 367-372, 2006.
 - 18) Luke D: Psi research and anomalistic psychology in the UK. *Proceedings of 7th Psi Meeting*, 202-205, 2011.
 - 19) Cardeña E, Lynn SJ and Krippner S eds: *Varieties of Anomalous Experience: Examining the Scientific Evidence*, American Psychological Association, 2000.
 - 20) Cunha WR: Phenomenology of trance: The paranormal as a field of study of the science of religion. *Proceedings of 7th Psi Meeting*, 36-40, 2011. [In Portuguese with abstracts of English, French, Japanese, Russian and Spanish]
 - 21) Martins LB: Varieties of contemporary experiences: Psychology faces alleged UFOs and aliens. *Proceedings of 7th Psi Meeting*, 41-51, 2011. [In Portuguese with abstracts of English, French, Japanese, Russian and Spanish]
 - 22) Mizumoto S: Cultural domain over dissociative experiences and drug addiction recovery by members of Santo Daime and Umbanda. *Proceedings of 7th Psi Meeting*, 62-79, 2011. [In Portuguese with abstracts of English, French, Japanese, Russian and Spanish]
 - 23) De Oliveira LPM: The representation of religion in the psyche and the possible consequences in the development and structuring of the personality of children belonging to Santo Daime Doctrine. *Proceedings of 7th Psi Meeting*, 80-85, 2011. [In Portuguese with abstracts of English, French, Japanese, Russian and Spanish]
 - 24) Martins LB: Strange evolution: Darwinian possibilities in psychology of anomalous experiences. *Proceedings of 7th Psi Meeting*, 86-98, 2011. [In Portuguese with abstracts of English, French, Japanese, Russian and Spanish]
 - 25) Hageman JH and Krippner S: A survey of Afro-Brazilian mediums: Gender differences and distinguishing characteristics. *Proceedings of 7th Psi Meeting*, 18-35, 2011.
 - 26) Zangari W and Machado FR: Toward an inclusive anomalistic psychology. *Proceedings of 7th Psi Meeting*, 162-166, 2011. [In Portuguese with abstracts of English, French, Japanese, Russian and Spanish]
 - 27) Klintman H: Is there a paranormal (precognitive) influence in certain types of perceptual sequence? Part I. *European Journal of Parapsychology*, **5**: 19-49, 1983.
 - 28) Libet B: Subjective antedating of a sensory experience and mind-brain theories: Reply to Honderich. *Journal of Theoretical Biology*, **114**: 563-570, 1985.
 - 29) Wolf FA: On the Quantum Physical Theory of subjective antedating. *Journal of Theoretical Biology*, **136**, 13-19, 1989.
 - 30) Radin, DI: *The Conscious Universe: The Scientific Truth of Psychic Phenomena*, San Francisco, HarperEdge, 1997.
 - 31) <http://phsc.jp/dat/prg/2011.pdf>.
 - 32) 福田敦史、水本正晴：科学革命か疑似科学か ～ 予知能力の「証拠」とアカデミズム. *科学基礎論学会学術大会資料*, 2011. <http://phsc.jp/dat/rsm/2011w2.pdf>
 - 33) 石川幹人：科学と認定されない超心理学の歴史～ベムの予感実験の背景. *科学基礎論学会学術大会資料*, 2011. <http://phsc.jp/dat/rsm/2011w201.pdf>
 - 34) 坂根照文： Bem (2011)に対する2つの疑義. *科学基礎論学会学術大会資料*, 2011. <http://phsc.jp/dat/rsm/2011w202.pdf>
 - 35) 森田邦久：「予知」の可能性を物理学から考える. *科学基礎論学会学術大会資料*, 2011. <http://phsc.jp/dat/rsm/2011w203.pdf>
 - 36) 渡辺恒夫：反コペルニクス的転回のために. *科学基礎論学会学術大会資料*, 2011. <http://phsc.jp/dat/rsm/2011w204.pdf>
 - 37) 筒井泉：量子力学の反常識と素粒子の自由意志. 岩波書店, 2011.
 - 38) Grad B: The biological effects of the "laying on of hands" on animals and plants: Implications for biology. In G.R. Schmeidler (Ed.), *Parapsychology: Its Relation to Physics, Biology, Psychology, and Psychiatry*, pp. 76-89. Metuchen, NJ: Scarecrow Press, 1976.
 - 39) 国際ヒーリング看護協会: <http://npo-ihan.net/>
 - 40) <http://noosphere.princeton.edu/>
 - 41) Sheldrake R and Smart P: Videotaped experiments on telephone telepathy. *Journal of Parapsychology*, **67**: 187-206, 2003.